

見つけた!

こんな文学教材

京都教育大学 寺田 守

●第2回●

「夏を見上げて。」(あさのあつこ)を小集団で読む

解釈をめぐる対話の意義について述べた。取り上げる作品は「夏を見上げて。」である(『中学生の国語 学びを広げる』二年掲載)。頭がよくて、性格もよくて、スポーツが得意な六年生の藤城一は、雷が苦手である。ある日の六時間目に夕立と共に雷が鳴り出す、一はイメージが台無しになってしまうことを恐れて、必死に平気なふりをする。友人の恵介は、背中を丸め、小刻みに揺らして震えていた。同級生にからかわれた恵介は、「怖いから、どうしても震えちゃうんだ、それってしょうがないだろ。」とさわりと言う。そんな恵介をうらやましく思う一と恵介との思春期にさしかかった少年の心の触れ合いを描いた掌編である。

「夏を見上げて。」の解釈を話し合った記録を紹介する。平成二三年七月二五日に京都教育大学の大学院生と筆者の六名が参加した。

それぞれが一文を選び話し合ったもので、以下の記録は「一なりに、がんばってもきた」という一文について話し合った場面である。

01 A 一は努力してここまでたどり着いたのになんて思ってたんですけど、「一なりに、がんばってもきた」っていうのは、うまくいってない人の言い方じゃないかなってすごい思ってる。不思議な表現ですよ。

02 B そうですね。

03 A 「なんとかなりに」っていつ使いますか？

04 B 自分の物差しでみたいなことですね。自分なりじゃなくっても、がんばってるって思われてるんですよ。そこをあえて自分なりに。

05 D 自分なりじゃなくてもがんばってるって思われて、その状況が生まれた後、それ

を守るというか、自分のイメージを壊さないように、やってきたんだっていう「もきた」。

06 B あー。

Aは、01でこの一文が「うまくいってない人の言い方」なのに、実際の一は勉強もスポーツも一番でうまくいっており、つじつまが合わない疑問を述べた。Aは、この一文を、がんばったけれどもうまくいかなかった時の言い訳のようだ、と考えたのである。Dは05で、「自分のイメージを壊さないように、やってきた」とがんばる内容の違いだと述べた。つまり、周囲は一が勉強やスポーツの努力をしていると考え、一自身はそうしたイメージを壊さないように振る舞う努力をした、と理解した。これにBが「あー」と納得を示す声を上げた。小集団で一文の意味を話し合う意義の一つがここにある。一人ではたどり着けなかった解釈に仲間の発言を聞くことで到達する。人は思ってもみなかった考えを聞き、しかも納得できる時、思わず「あー」と声を漏らす。そうした「あー」体験が、理解を押し進め読む楽しさを感じさせる。

07 F 『バッテリー』の主人公もそうなんですけど、できる男なんですよ、一も。

08 C うんうん。確かに。

09 F 成績も良いし、運動もできる。で、それはがむしやらにがんばって、すごい努力をして築き上げたものっていうよりは、ちょっとクールにサラリとできてしまうような、ちょっと嫌なやつなんですよね。いや、でも性格は、全然嫌じゃないという、もう、非の打ち所のない嫌なやつなんです。

10 C ふふ。

11 A バッテリーの主人公は、でも、なんかちょっとツンツンしてるというか。

12 F 嫌なやつでしたね。

13 A うん、はい。でもこの子は、けっこう良い子じゃないですか、最後まで。

14 F がんばってるところを、あんまり人に見せたくないっていう時の謙遜。あるいは自分で、がむしやらにがんばっててことを認めたくなくて、まあそれなりにがんばってるとだけどねっていう。

15 B 採用試験むちゃくちゃできました。自分なりにですけど、みたいな。謙遜ですよ。この一文があるので、がむしやらじゃないヒーロー像ができますよね。

ここでは『バッテリー』の主人公原田巧と比較した一の人物像が話題に上る。Fは一がイメージを壊さない努力でなく、やはり勉強やスポーツをがんばっていると考えた。そし

て類似する『バッテリー』の主人公を持ち出した。

16 B これ、一なりに「も」がんばってきた、とは違うんですよ。

17 A そうですね。一なりにがんばって「も」きた。何? 「も」って。

18 F 「がんばってもきた。」

19 A あ、だから、分かった。天性じゃなくて努力もしたってことか。

20 E そうそう、がんばってない才能もあるってこと。

21 B でもなんか、100パーセントがんばってないじゃないですか、この言い方って。

22 F もともとスポーツも勉強もできるし、性格も良いけど。

23 複数 努力もした。

24 B がんばってきたけども、その他大勢の人たちのがんばりの尺度とは違うよっていう。

25 A うんうんうん。あはは。確かに。

26 E リアルやな。

27 C 何もしてなかったわけじゃないよ、みたいな。自分なりのがんばりもしてきたよ。

BとAが16、17で「も」の働きに注目した。そして19や20、22の発言から、「も」の添加

の意味を共通の理解とした。才能もあるけれど努力もしているという一の自己認識を読み取った。解釈をめぐる話し合いでは、異なる解釈が提出されることで、対話が促される。対話とは、ただ参加者が自分の意見を述べ合うことではなく、自分と相手との考えの違いに気づき、質問し、その上で合意を形成していく過程である。解釈法を用いて言葉の意味を吟味する話し合いは、「あー」といった納得を生み、合意を形成することができる。

参考文献

寺田守、「読むという行為を推進する力」、溪水社、二〇二二年

てらだ まもる 京都教育大学准教授。専門は読むことこの学習指導研究(文学)。現在は小グループの読書を活用した学習活動の開発に取り組んでいる。